

令和5年度校内研修計画書・経過報告書

みなかみ町立古馬牧小学校
校長 細矢 瑞左
研修主任 岡村 美保

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自他を大切にし、よりよく生きようとする児童の育成
副主題 ～多面的・多角的に考えるための発問や交流活動の工夫を通して～

児童生徒の実態との関わり

- ・自分に自信がもてず、考えはもててもそれを発表できない児童が多い。
- ・善悪の知識はあっても、実際の場面では正しい判断ができない児童が多い。
- ・議論をすることが苦手で、お互いの意見を比較したり、その良さに気付いたりすることができない児童が多い。そのため、「相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深める」ことがなかなかできない。

指導の在り方との関わり

- ・道徳の授業において、その時間のゴールを見据えて発問を工夫することにより、児童の多面的・多角的な思考を促す。
- ・板書や ICT などを活用して互いの考えを可視化したり、教師の「問い返し」で児童の思考に揺さぶりをかけたりして、一人一人の児童が自信をもって話し合い、考えを深めていけるような交流活動を工夫していく。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

- 【低学年】道徳的価値について友だちと話し合う中で、その意義及びその大切さを感じ取り、よりよい自己の生き方について考えようとする児童
- 【中学年】道徳的価値の理解をもとに、自己の生活を振り返り、自他の考えを大切にしながら、よりよい自己の生き方について考えようとする児童
- 【高学年】道徳的価値観を多面的・多角的に捉え、自己の生活を振り返り、他者と対話したり協働したりしながら、よりよい自己の生き方について考えようとする児童

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・道徳的価値を理解し、自分ごととして捉えて考えることができるような発問や指導形態の工夫
- ・お互いの考えたことを視覚的に捉えやすくしたうえで、考えを伝え合い共有しながら、自分の考えを広めたり深めたりできるような交流活動の工夫

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・発問や交流活動のもち方を工夫することにより、交流が活発になり、児童は様々な考えを共有できるようになった。そのため、自分の考えに固執することなく、考えを広げようとする児童が見られるようになった。

○課題

- ・発問に対して、児童から想定外の考えが出てしまったとき、その場に応じて「切り返し」を行うなどの補助発問が十分にできないときがあった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・児童の実態を十分に把握すると共に、様々な場面を想定した補助発問の引き出しを増やしていけるようにするなど、教師の話し合いに対するコーディネート能力を向上させていく必要がある。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討

授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段) ・明らかになったこと (下段)]
4.10	・本年度の研修についての通理解等	○児童の実態や課題についての共有 ○研修主題・副主題・研修内容、についての検討 ・今年度の研修の方向性について、共通理解を図ることができた。
5.1	・研修計画書の検討 ・研修に関わるアンケート内容についての検討	○目指す児童像 [共通実践する手立て] の吟味 ○研修計画についての検討 ・児童が考えを広めたり深めたりしていける発問や交流活動を工夫していく [共通実践する手立て] が明らかになった。
5.24	校内研修アドバイザーによる 道徳スキルアップ講座	○道徳授業に関しての教員のスキルアップ ・自分ごととして考えることができる発問や交流の工夫について具体的な実践例をもとに研修することができた。
6.5	研究授業計画の検討及び授業者決定	○小道研及び地区別人権研究協議会に向けての研修の方向性の確認 ・研究授業計画及び各発表会での授業者を決定した。
6.26	今後の授業研究に関する確認	○研究授業及び授業研究会のもちかたについての確認 ・校内研修アドバイザーにできる限り授業を見てもらってアドバイスをもらうことが決定した。
6.29 7.12	授高学年・低学年ブロックで研究授業及び授業研究会	○発問及び交流活動の工夫 ・より深く考えてさせるためには、モラルジレンマを取り入れた発問を行うなどして、変化する心情を表現させる方法も検討する。 ・心情メーターや Jam Board 等を活用して自分の意見を表出させることで、意見の交流が効果的にできた。
夏 休 業 中	・各教諭指導案作成及び模擬授業 ・研修に関わる資料による個人研修	○多面的・多角的な思考を促し、自分事として考える発問の工夫 ・主発問に「投影的発問」「批判的発問」を入れていく。 ○一人一人の考えを深めていけるような交流活動の工夫 ・話し合いの視点及び自分の立場や考えを明確にすることが重要。
8.28	指 小道研授業公開の指導案検討	○発問及び交流活動の工夫 ・導入における問題意識の向上、多面的・多角的に考えるための発問、互いの考えを共有して考えを深めるための交流活動をどのようにしていくかについての方向性が明らかになった。
9.25	・授業検討会での話し合いの視点について 指高学年・低学年・特支ブロックで小道研授業公開の指導案検討	○授業の視点について ・研究のねらいからそれないための、授業を見るとき視点 (授業研究会での話し合いの視点) が決定した。また、授業研究会の進め方が決定した。
10.2	指4年「いじりといじめ」 研究授業及び授業研究会	○発問及び交流活動の工夫 ・児童の実態に合った発問をすることにより、本音が引き出せ交流が活発になる。
11.1	授特支ブロック研究授業及び 授業研究会	○発問及び交流活動の工夫 ・語彙が少ない児童でも自分の思いを表せるように、感情を可視化できるような工夫をすることが大切である。
11.17	授小道研授業公開	○今年度の研修の概要及び成果と課題の発表及び研究授業
11.27	指地区別人権教育研究協議会 の指導案検討及び模擬授業	○発問及び交流活動の工夫
12.8	授地区別人権教育研究協議会	○今年度の研修の概要及び成果と課題の発表及び研究授業
12.18	・研修のまとめ	○今年度の研修の成果と課題の確認
1.29	・みなかみの教育について	
2.26	・研修のまとめ ・来年度の研修の方向性について	○次年度の研修の方向性の検討

※資質向上研修

月日	区 分	講 師	内 容
4.10 5.1	ICT 機器の活用に関する研修	情報主任 千明大士郎	・タブレット研修①「Classroom」と「共有ドライブ」の違い ・タブレット研修②「キュビナ」の使い方
5.24	道徳教育に関する研修(5回)	校内研修アドバイザー	・道徳指導法のスキルアップのための研修 ・研究授業における指導助言
6.7	人権教育に関する研修	利根教育事務所 指導主事 社会教育主事	・人権感覚を高める演習 ・人権教育の実践事例について
6.26	学校保健に関する研修	養護教諭 南雲優花	・食物アレルギーの対応の仕方
8.1	児童生徒理解	S.C原澤幾子	・保護者相談のコツについて